

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0044

所在地 東京都世田谷区赤堤1-10-23 三井ハイム102

評価機関名 合同会社フェアリンク

認証評価機関番号

機構 12 - 213

電話番号 03-6379-1449

代表者氏名 加藤浩之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤浩之	福祉、経営	H0201050
	②	野田友子	福祉	H0202088
	③	田鹿 勉	経営	H1301026
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認証保育所A型・B型			
評価対象事業所名称	メリーポピンズ成増ルーム			
事業所連絡先	〒	175-0094		
	所在地	東京都板橋区成増1丁目26番3号 プラザサンタナカ6号館1階		
	TEL	03-5997-5550		
事業所代表者氏名	朝重雅恵			
契約日	2019年 10月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 12月 10日			
利用者調査結果報告日	2020年 2月 9日			
自己評価の調査票配付日	2019年 12月 10日			
自己評価結果報告日	2020年 2月 11日			
訪問調査日	2020年 2月 18日			
評価合議日	2020年 3月 10日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査では保護者に対する書面によるアンケート調査を実施。施設長名の依頼状及び調査票、返送用封筒の3点を対象者の人数分の封筒に封入し、園に送付のうえ、子どもの送り迎えの際に保護者に配布してもらった。 ・利用者調査の一環として、保育士の資格を有する担当評価者2名で、午前中の戸外保育や、園児と同じ献立の給食を試食しながら食堂での昼食の様子を観察した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 月 日

事業者代表者氏名 代表取締役 高堀 雄一郎

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげんカ」のある子どもを育てる遊びの機会と環境を作ります。 2)保護者のニーズを捉え、保護者満足度の高いサービスを行う。 3)地域のみんなで子どもを育てるコミュニティづくりを目指します。 4)一人一人が提案、実行できるパワーのある保育者集団を目指します。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもに必要な体験を提案し実行できる。保育者自身が自己成長を意識する。家庭的な雰囲気の中で子どもに寄り添い、子どもの声を傾聴する。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>柔軟な思考のもと保育にあたり、常に向上心を持って業務にあたる。</p>

調査対象	アンケートの対象は調査実施時点で在籍している子どもの保護者全員(ただし世帯単位)。2人以上の子どもが同じ通園している場合は、年齢がいちばん下の子どものクラスに関して回答してもらった。
調査方法	書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を園経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接郵送してもらった。
利用者総数	28
利用者家族総数(世帯)	27
共通評価項目による調査対象者数	27
共通評価項目による調査の有効回答者数	19
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	70.4

利用者調査全体のコメント

各共通評価項目に対し、肯定的な回答の割合がほぼ9割以上に達した項目が全17問中10問と約6割を占め、中でも保育の内容に関する設問(問1～問4)では回答者の全員が「はい」と回答している。その一方、「どちらとも言えない」「いいえ」の回答が多かったのは、順に問6(安全対策)、問9(園内の清潔・整頓)、問17(外部の相談窓口の説明)で、その割合は約16～26%を占めている。問17では、「非該当・わからない」の回答が3割を超えている。問5(保育時間の変更への対応)、問14(プライバシーの保護)でもその割合が約26%を占めており、問5では、自由記述欄に「変更したことがない」とのコメントが寄せられている。共通評価項目に加え、園の保育に対する総合的な満足度を5段階で尋ねたところ、最上位の「とても満足」の回答が約79%、続く「満足」が約16%で、以下、「どちらもしゃない」「不満」「大変不満」の回答はなかった。保護者の満足度は非常に高い水準にあると推測される。利用者調査の一環として、保育士資格を持つ2名の担当評価者が午前中の戸外保育及び子どもと同じ献立の給食を試食しながら食事の場面を観察し、その結果を訪問調査の際に園に報告した。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	19	0	0	0
実際の調査票の質問文(以下、Q):園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	19	0	0	0
Q:園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	19	0	0	0
Q:園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	19	0	0	0
Q: 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	13	1	0	5
Q: 急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれていると思いますか				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	14	4	1	0
Q: 安全対策が十分取られていると思いますか				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	17	0	0	2
Q: 行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	18	1	0	0
Q: お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係があると思いますか				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	14	3	1	1
Q: 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか				
10. 職員の接遇・態度は適切か	18	0	0	1
Q: あなたは、職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどが適切だと思いますか				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	18	0	0	1
Q:子どもがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	14	2	0	3
Q:子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	18	0	0	1
Q:あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	13	0	0	6
Q:あなたやお子さんのプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	18	0	0	1
Q:お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	16	1	0	2
Q:あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	9	3	0	7
Q:あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	施設長は運営責任者として子どもと家庭の状況や運営上の問題等の把握に努めている 関連法人のグループが共通の理念・方針のもとで保育関連事業を全国に展開している。一体的な管理体制のもと、本社事業部がエリアごとに各事業所の運営をサポートしている。昨年度まで当園のリーダー保育士だった施設長は、前施設長の法人内異動にともない、今年度より現職に就任した。職員間の連携を図りながら昨年度までの取り組みの継続・発展を目指し、一人ひとりの子どもと家庭の状況や運営上の問題等の把握に努めている。今回実施した保護者アンケートでは保育に対する高い満足度が示されており、安定した保育が展開されている様子がうかがえる。	
	法人全体で施設長のマネジメント能力の向上を目指した研修を計画的に実施している 施設長には日常の保育に関する事項や法人が設定した予算の範囲内で自園の経費をコントロールする権限が与えられている。法人全体として現場のトップである施設長の育成に力を入れて取り組んでおり、年間の研修計画に基づき、毎月、人材マネジメントと保育の質のそれぞれのカテゴリごとにテーマを設定して、同一エリア内の事業所の施設長が学びを共有している。研修の講師は法人役員の他、本社の管理職と施設長が交代しながら務めており、各事業所の主任クラスの職員による横断的な会議との連動を意識したカリキュラムを策定している。	
	年2回の保護者懇談会及び運営委員会で、事業の報告や要望等の把握に努めている 年2回、保護者懇談会と運営委員会を平日の夕方、同日に開催している。懇談会では、保育の状況について、子どもたちの園での姿を中心に職員から報告するとともに、保護者が普段感じている園に対する疑問や要望等に応えている。また、子育てに関する保護者の悩み等を語り合う場を設けるようにしている。運営委員会には各クラスの代表の保護者、事業所から施設長及び本社スタッフ、外部委員として系列園の施設長が参加し、園から事業の報告を行うとともに、保護者からの意見や要望等の把握に努めている。その議事内容を保護者及び職員に開示している。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>法人による外部環境の分析と園が集約した保護者の意向の結果を改善に活用している</p> <p>法人のマネジメントシステムにおいて、保育サービスに関連する法制度についての情報収集は施設長の役割となっているが、実際には本社が中心となって、関連する法制度の改正や社会・経済環境の変化、業界の動向等に関する情報の収集を行い、幹部会議における分析結果を毎月の施設長会議や研修等の場で職員に伝えている。園では、保護者との日常的なやり取りの中でニーズの把握に努めるとともに、法人全体として年1回実施するアンケートを通じて保護者の意向を集約し、保育の振り返りと継続的な改善に活用している。</p> <p>保育の全体的な計画との関連を整理しながら事業計画書の内容を吟味することが望まれる</p> <p>法人のフォーマットに沿って単年度の事業計画書を作成しており、その最後に「3か年計画」として、各年度の目標を一文で謳っている。年度ごとに作成する事業計画書とその対となる事業報告書について、園の運営管理の仕組みの中でどのような役割を果たすものなのか、付表を含む保育の全体的な計画との違いや関連を整理したうえで、必要な内容を吟味することが期待される。事業報告書においては、事業の実績報告と併せ、計画に照らしての一年間の取り組みの評価及び分析をおこなったうえで、次年度の事業計画につなげていくことが期待される。</p> <p>園全体の目標達成に対する職員の参画意識や責任感を高める仕組みの検討が期待される</p> <p>昨年度の収支予算書は本社主導で編成しており、園の事業計画との関連に関して、施設長から明確な説明は聞かれなかった。法人では、年度の収支予算の作成において、今後、施設長が決定する範囲と権限を広げていく方向で検討を進めている。施設長に対する目標管理制度では、主に園全体の目標が設定され、半年ごとに達成状況を確認している。今後、事業所の目標と連鎖する形で職員一人ひとりの目標を設定する仕組みを整え、事業所全体の目標達成に対する職員の参画意識や責任感を高めることが期待される。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的を確認している	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
<p>法人全体として定期的な内部監査や自己点検の仕組みを整え、法令遵守体制を整えている</p> <p>法人全体として独自の点検項目に沿って3か月ごとに内部監査を実施している他、職員一人ひとりが日常の子どもに適切に対応しているかを共通のチェック項目で自己点検する取り組みを年2回実施している。また、各園における書類の整備状況や日々の職員配置の状況等について、法令の要件を満たしているかを本社が一元的に管理する仕組みを整えている。基準を下回った場合にはPCの画面上でアラートが上がることになっているが、実際には是正が必要な状態を把握しきれていないケースも生じており、今後、何らかのサブシステムの整備が期待される。</p> <p>虐待防止に向けた関係機関との連携体制や法人全体の内部通報制度を整えている</p> <p>家庭での子どもの虐待が疑われる場合は、法人役員の指示に基づき、関係機関と連携して対応する体制を整えている。保育所は通園する子どもとその保護者にとって最も身近で密接な関係にある社会資源の一つであることから、これまで、地方自治体に設置される要保護児童対策地域協議会からの要請に応じて園が把握している情報を提供し、子どもの養育環境の適正化に向けて固有の役割を果たしてきた。また、以前より整備してきた法人全体の内部通報制度を職員がより利用しやすい形に改め、園内での虐待が疑われるケースに早期に対応できるように努めている。</p> <p>保育の体験等を通じて地域の子育て家庭を支援する事業の周知に努めている</p> <p>法人全体として、保育の全体的な計画に基づき、地域の子育て家庭を対象に、園での制作活動や公園での集団遊びを親子で体験する中で、遊び方のヒントを学んだり、日頃の育児の悩み等を保育士に相談することでストレスの解消に役立ててもらい取り組みの全園での展開を目指している。当園でも青空保育と子育てサロンを毎月各1回、開催しているが、昨年度の参加者数は大人と子ども合わせて延べ5人とどまった。活動の予定や毎回の様子を知らせる通信を毎月発行し、見学者や近隣の図書館等に配布して活動の周知に努めている。</p>		

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>園運営における重大なリスクを軽減するための対策を講じている</p> <p>保育中の子どものケガや事故、感染症の発生その他、園運営における法令違反や職員の離職を重大なリスクと位置づけ、その防止に向けて、法人本部を中心とするコンプライアンス体制の整備や職員の意向を踏まえた研修の機会の提供、職員同士の自主的な学び合いの支援等に力を入れている。また、感染症予防のための衛生管理に努め、流行のシーズンを迎える前に衛生用品一式を用意し、それを使った汚物処理の実演研修を毎年実施している。今後、大規模災害発生時の対応や事業の継続に向けた具体的な対策を関係者・関係機関とともに検討することが期待される。</p> <p>子どもの安全確保に向けた職員間の情報共有と研修を通じた意識の啓発に努めている</p> <p>子どもが自然体験を始めとする様々な経験を通じて自分で考え、行動する力を育成することを法人の保育理念に掲げる一方で、活動中の事故や子どものけがを防止するため、事故及び事故の危険に直面した職員が、その状況等を書面にまとめて報告し、毎月の職員会議や日々のミーティングで情報共有を図るなど、安全管理に力を入れている。また、日常の保育環境に潜む危険に対するアンテナを高めるための職員研修の実施や、職員に向けた法人の通信に法人内外の事業所で実際に起きた事故事例を掲載するなど啓発に努めている。</p> <p>利用者の個人情報保護の仕組みと、情報を共有・活用するためのルールを整備している</p> <p>利用契約を結ぶ時点で、利用者から預かる個人情報の使用目的や使用の条件等を文書で提示し、保護者の同意を求めている。職務上、利用者の個人情報を知り得る立場にある職員や実習生には、退職後または実習終了後も外部に漏らさないことを誓約した文書への署名・提出を義務付けている。また、事務室内に鍵付き保管庫を設置し、個人情報を含む書類を分類・整理して保管している。組織内で共有することを目的に収集・蓄積している情報は法人のルールに従ってファイリングし、パソコン内またはキャビネットの所定の場所に保管して、職員に周知している。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

職員採用の際は法人理念に対する共感を重視し、法人が期待する人材像を明示している

職員の確保と定着を最重要課題に据え、保育士については新規学卒者の定期採用を軸に本社が一括して採用をおこなっている。求人難の折り、職員からの紹介制度を導入している。選考にあたっては法人理念に対する共感を重視し、法人として期待する人材像や共通の目標に向けたミッションとその実現に必要な能力等を明示して入職時に説明している。当事業所では今年度1名の非常勤の保育士を採用した。

職員のモチベーションの向上と職員間の連携による組織力の強化に取り組んでいる

法人全体の人事制度において、職員に期待する能力やマインドについて、定着の度合いを所定の項目ごとに評価し、その結果を集計して昇給や賞与、昇格等に反映している。また、全社的な業務改善のプロジェクトに職員の主体的な参加を呼びかけ、現場からのアイデアや提案を積極的に取り入れるなど、職員のモチベーションの向上に取り組んでいる。当事業所では職員間の情報共有と職種間の連携に加え、職員同士が相互に気づきを伝え合い、指摘し合える関係性を高めることで組織力のさらなる強化を図ることを重点目標の一つに掲げ、取り組みを進めている。

各人の役割や意向に応じた研修や個別面談での振り返りを通じて職員の育成を図っている

施設長が年2回、職員と個別に面接を行い、半年間の職務を振り返りながら達成状況を評価し、各人の課題や目標を明らかにする取り組みをおこなっている。また、法人として階層別の研修制度を整備するとともに、職員一人ひとりの学習ニーズを把握し、個別の目標と連動する形で外部研修を案内している。今後は法人の理念・方針に沿った保育のさらなる展開を目指し、園の状況や職員の意向を踏まえた園内研修の計画的な実施に向けた検討が期待される。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 年度の初めに、全国に保育事業を展開する法人グループの職員を対象とした経営層による事業計画の全体説明会をエリアごとに開催している。法人の理念・方針等を職員に周知する場となっている。法人の目指す保育の目標等はホームページやパンフレットの他、職員に配布する保育品質マニュアル等にも明示されている。法人では、理念や方針等を職員により深く浸透することを目的として、各園の利用希望者に対する説明を法人のパンフレットに沿って職員全員が担えるようになることを目標に掲げ、まずは毎月の施設長会議で趣旨の説明とオリエンテーションを実施した。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 昨年度までは、見学者の対応と入園時の保護者との個別面談を施設長とリーダー保育士(現在の施設長)の2名で担当していたが、法人の方針を受け、職員会議においてパンフレットの内容を振り返る形で理念や方針の意味をかみ砕き、施設長以外の職員が自分の言葉で説明できるように取り組みを進めた。今年度は3名の正規職員が見学対応や入園時の面談を実際に経験しており、その中で法人の目指す保育についての理解を深めるとともに、それに照らして現時点における自園の保育の強みや課題を認識する機会となったと振り返っている。今後も継続的な取り組みが期待される。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

法人全体として、園内の子どもたちのスペースを異年齢の子どもたちが自由に行き来し、子どもが自分の過ごしたい場所で、好きな遊びを、好きな友だちや職員と一緒に楽しむ姿を見守る保育を目指している。その実現に向け、保育の質の向上をミッションに据えた法人全体の会議を月1回、本社で開催しており、系列園の中核的な職員が参加して、議論を深めている。当園では、ワンフロアの子どもの生活空間を、棚や遊具をパーティション代わりにして、大きく3つのスペースに分けている。それまでは、安全確保を優先して、それぞれのスペースの入口に扉を付けていたが、子どもの自由な行き来をかなえることを目指して、室内の扉の撤去に向けた検討を開始した。法人の会議における議論や他園での取り組みについての情報等も参考にしながら職員間の話し合いを進めてきた。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

法人全体の会議では、法人の目指す保育実践に対する学びを深めるための研修をおこなっており、今年度は保育の環境構成をテーマの一つに据えている。子どもが安全に集中して遊べる空間の作り方や遊具、玩具の置き方などが話し合われ、その成果を各園が持ち帰って、子どもが遊びやすく、片付けやすいままごと遊びや絵本のコーナー、汽車や車の玩具で遊ぶエリアの設定などの改善を図っている。それに加え、当園では、子どもの生活スペースを仕切っていた扉を撤去し、子どもが自由に室内を行き来できるようにした。環境設定の変更にとともに、職員の立ち位置の確認や職員同士の声掛けに対する意識が以前より高まっている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(00000)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている
	○非該当	
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>グループ全体のホームページにより、共通の保育理念や方針、保育目標等を案内している</p> <p>グループ全体のホームページを通じて、共通の保育理念や方針、保育目標等を案内している。系列園での子ども実際の活動や生活の場を撮影した動画や写真画像を使って文字情報を補うとともに、必要に応じて英語及び中国語の表記への切り替えを可能とするなど、ユーザーの多様なニーズに配慮している。ホームページの問い合わせフォームから利用希望の園を指定して資料請求や見学希望のオーダーを送ることもできる。昨年度リニューアルしたホームページの内容に関し、保護者の感想や意見等を集約して、さらなる充実に活かしていくことが期待される。</p> <p>利用希望者の見学を随時受け付け、日程を調整して施設長または正規職員が対応している</p> <p>見学の問い合わせは電話等で随時受け付け、希望に応じて日程や時間を調整している。1回に案内するのは4組までとし、施設長または2名の正規職員が対応している。見学の際は園のパンフレットや保護者向けの毎月の通信を配布し、園の概要や子どもたちの園での生活や活動の様子等を説明している。案内用の印刷物には写真画像が多く取り込まれ、子どもたちの生き生きした姿を伝えるレイアウトの工夫が見られる。見学対応においては、すべての職員がパンフレットに沿って自分の言葉で保育の理念等を説明できるよう、研修等の実施を検討している。</p> <p>利用定員に空きがない場合は、当園の一時保育の他、同系列の他園を紹介することもある</p> <p>利用の希望を受けても定員に空きがなく、すぐに利用できない場合は、待機者リストに登録するかどうかの意思を確認のうえ、空きが生じた時点で、申し込み順に並んだリストの上位者から順次案内している。利用希望者が保育施設の確保を急いでいるような場合は、近隣にある系列の認可保育所や認証保育所を紹介することもある。また、定員の枠内での一時保育を実施しており、必要に応じて、そちらの利用についても案内している。</p>	

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>個別の入園面談を行い、重点項目をわかりやすく、且つ丁寧に説明している</p> <p>入園を決めた家庭には随時、個別に入園面談を行っている。その際は、入園に必要な書類一式を渡し記入してもらったり、聞き取ったりしている。入園面談で重点的に話していることは、法人作成のパンフレットのなかの私たちの子育てや運営理念、子育て理念、子育て目標、グループミッション等の他、園独自に強調している点は、戸外活動がメインの活動であるため、朝9時までの登園を依頼している。園長が主に関わっているが、職員にも入園面談について周知させるため、園長の側に着いて保護者に重点的に説明する項目を伝えるトレーニングを行っている。</p> <p>職員全体で新入園児の状況を把握し、無理なく慣れていくよう援助している</p> <p>職員には月末の園会議の折に新入園児の細かな情報を話し、全体に周知している。新入園児受け入れに際しては、不安感の強い子どもにスキンシップを取りながら、個々の子どもの特性を加味し、保護者とのやり取りを丁寧にしながら、室内や戸外など、子どもが落ち着ける場所でのマンツーマンでの保育をして、園生活に馴染んでいくよう援助している。保護者には専用アプリを使用し、我が子が遊んでいる姿などをリアルタイムで見る事を勧めている。慣れ保育は実施を必須とせず、子どもの様子や保護者の要望・就労状況等を鑑みて個々の対応を心掛けている。</p> <p>転園児の転園先の園とのつながりの機会を持つことを今後の課題としている</p> <p>途中退園や、3歳児クラスの移行に向けて転園していく子どもには、基本的にはお別れのカードや作品集を渡している。転園等に際し、必要に応じて子どもに対する個別の配慮事項等を所定の様式に記述し、保護者の同意のもとで転園先に情報提供する仕組みを法人として整えている。当園の転園児は幼稚園に行く子どもが多く、園長は幼稚園での生活ぶりを見ることを課題としており、幼稚園との連携を視野に入れている。子どものその後の育ちを確認する上からも、実現が望まれる。</p>			

サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	

サブカテゴリ-3の講評	
<p>子どもの健康状態や家庭状況等を把握するとともに、発達の推移等を毎月記録している</p> <p>利用開始時に子どもの健康状態や心身の発達状況、成育歴、家庭での生活状況等に関して、保護者から所定の書類の提出を求め、個別の保育ニーズを検討する際の参考としている。保育開始後の子どもの心身の成長や発達の過程を年齢ごとのチェックシートをもとに毎月確認し、子どもの様子を個別に記録している。また、個別指導計画を毎月作成し、前月の子どもの姿をもとに、養護と教育のそれぞれの領域において当月の保育目標を設定している。今後、個別指導計画作成の過程における前段の個別記録の位置づけや目的を明らかにすることが期待される。</p> <p>月ごとの指導計画の振り返り及び保育のねらいの保護者への説明において改善が望まれる</p> <p>保育の全体的な計画をもとに年齢別の年間、月間及び週間指導計画を展開し、年度末の職員会議で全体的な計画及び年間指導計画の振り返りをおこなっている。月間指導計画及び個別指導計画には前月の子どもの姿、養護・教育のねらいを掲げ、省察をしているものの、職員が目標達成に向けて何に配慮し、どう関わったのかなど、指導上の留意点の記載の仕方には工夫の余地が見られる。また、子どもの育ちを保護者とともに支える関係を強化するために、個別指導計画における当月の保育のねらい保護者に説明し、共通認識を深める取り組みが期待される。</p> <p>毎月の職員会議や毎日の昼礼等で子ども一人ひとりの状況を職員間で確認、共有している</p> <p>月間指導計画や週案をクラスごとにパソコンで作成し、共有フォルダに保存している。園長はすべてのクラスの指導計画を確認するよう職員に声をかけ、一人の子どもに対して全職員が関わるよう意識を高めている。夕方から開かれる月1回の職員会議で子どもの個別状況の報告と留意点の確認等を行い、要点を会議録にまとめて全員に回覧している。また、毎日の昼のミーティングで職員間の連絡ノートのメモを読み上げ、周知を図っている。ノートには子どもの様子で印象に残ったことやエピソード等も書かれ、子どもの育ちの理解を深める取り組みとなっている。</p>	
サブカテゴリ-5	
5	<p>プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5</p>
<p>評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ-5の講評	
<p>保護者より個人情報や写真使用の承諾を取るとともに取り扱いのマニュアルを備えている</p> <p>利用契約の際に、利用者の個人情報の使用目的や使用方法等について書面で説明し、同意を得たことを署名で確認している。必要に応じて療育機関や医療機関等に個人情報の外部提供を行う際は、その都度、保護者の意思確認をおこなっている。また、園の毎月の通信等には子どもたちの日常の活動の様子を生き生きと伝えるために写真を多用しており、その際は顔写真のアップは避けるとともに、保護者より使用の承諾を受けている。法人として個人情報の保護に関するマニュアルを整備するとともに職員に対する研修を行い、周知に努めている。</p> <p>子どもの意思を尊重し、子どもが自分でできることを見守る姿勢を重視している</p> <p>法人として、子どもを呼び捨てにしないことを徹底するとともに、子どもが自分でできることを見守る姿勢を重視している。今回の観察調査においては、子どもに対する職員の接し方は全体として抑制的で、職員の声が響き渡るような場面は見受けられなかった。登園時間はある程度決められているものの、家庭の状況に応じて個別に話し合いを行い、柔軟に対応している。家庭での養育環境が気になる場合は、担任からの報告を受けて職員会議で情報を共有し、必要に応じて法人役員に報告・相談を行いながら関係機関と連携して対応する体制を整えている。</p>	

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映させている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>品質管理の仕組みのもとでの継続的な改善活動を通じて、業務の標準化に取り組んでいる</p> <p>法人として保育サービスの分野で国際的な品質管理の基準に沿った取り組みを継続的に行い、専門の認証機関による定期的な審査を受けている。また、所定の研修を受けた社員が法人の定める点検表に沿って毎年内部監査を行い、その結果を各事業所にフィードバックして、振り返りの材料としている。点検表には300以上の項目ごとに確認の方法が具体的に示されており、業務の標準化に対する法人の強い姿勢がうかがえる。今後、保育所保育指針や関係法令の改定を踏まえた用語や内容の見直しを継続的に図ることが期待される。</p> <p>保育品質マニュアルの活用や職員研修により日常業務や緊急時対応の標準化を図っている</p> <p>法人の定める保育品質マニュアルは、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情対応、保健計画、食育計画、給食提供の各領域で構成されており、入職時に正職員全員に冊子が配布されている。各自必要なページにインデックスをつけて素早く確認できるようするなど、工夫しながら活用している。また、緊急時の対応や通報のフローチャートを電話の近くに掲示している他、アドレナリン自己注射薬の練習キットを使った研修や園内に備え置かれた衛生用品の一式を使用した嘔吐物処理の実演訓練等を行い、職員が落ち着いて対応できるように努めている。</p> <p>マニュアルを定期的に見直す過程において、現場の意見を反映する仕組みを整えている</p> <p>法人として現場の職員の前向きな意見やアイデアを大切に、それらを積極的に取り入れて体験学習の企画や職員研修の内容に活かしている。保育品質マニュアルを毎年見直す過程においても、現場の意見を集約して改定につなげる仕組みを整えている。今後は法人全体で年1回、園ごとに実施する保護者アンケートの集計結果についてもマニュアルを見直す際の材料に活用することが期待される。また、相当な分量のある保育品質マニュアルについて、その内容が細部にわたって現場に周知されているかを点検し、現状の把握につなげることが望まれる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		35 / 35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている		●非該当
評価項目1の講評			
<p>発達状態を把握し、見守る保育や気づきを一緒に考える保育を目指している 子どもの発達状態は、「個別記録」や日々の様子、連絡帳などから把握している。子どもの姿を把握した上で、保育実践で大切にしていることは、安心・安全な環境の中で、子どもも職員も笑顔があふれ、楽しく過ごせる園づくりを目指し、職員は一体となって関わろうとしている。子ども中心の保育、子どもの行動を見守る保育、見届ける保育を目指し、日々努めている。また、子どもが気づいたことを一緒に考える、子どもの問いかけにヒントを与える、教え込むことをしないよう留意しながら保育を進めており、その成果として子どもは伸び伸びと過ごしている。</p> <p>乳児クラスの異年齢保育を実施する中で0歳児への配慮を課題としている 0歳児～2歳児クラスの子どもが、三つのコーナーに仕切られた室内で、朝から夕方まで、ほぼ、活動を共にしている。異年齢保育の実施が日常的に展開されている。異年齢保育では、多方面からの刺激が子どもの「やってみよう」という意欲や、できた喜びへと繋がる経験となることをねらいとしている。年上の子が年下の子を思いやり、年下の子が、年上の子の真似をする姿も見られている。一方、0歳児の年齢の低い子どもの発達への関わり方については工夫の余地がある。</p> <p>気になる子どもへの丁寧な対応を心がけ、子どもへの関り方を配慮している 気になる子どもの対応として、職員間で、子どもの対応の仕方を話し合い、統一性を持ったかかわり方をしている。危険さを感じる行動は制止したり、行動を見守ったりと、場面に対応した取り組みをしている。子どもに無理強いをしないことを大切にし、気持ちが安定するよう子どもの好きな場所の確保や、安定して眠れる場所の設定、イライラ感が生じた際は、クールダウンをさせる場所や言葉かけに留意している。気になる子のなかには次年度専門機関と連携を取る子どももいる。専門職からのアドバイスを受けながら、子どもへの関りをさらに深めてほしい。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時や降園時の丁寧な対応を心がけ、保護者との関係性を築いている 登園時には、視診や触診を行っており、ケガや傷の状態を丁寧に見ている。保護者にいつからのけがや傷かを伺っている。近年、爪でのひっかけ傷のケガが発生している状況を踏まえ、朝の視診時に爪が伸びている子どもは、園側で用意した爪切りを使いその場できってもらい取り組みを始めている。保護者に事前に、なぜ爪を切ってもらいたいかの意図を伝える掲示物を出し、納得を得たうえで、爪切りを用意している。降園時は、3分対応を心がけ、連絡帳に記入している以外の子ども様子を全職員が一体となり、保護者との対話を充実させるよう努めている。</p> <p>生活習慣として手洗いや歯磨き指導を行い、習慣づけを大切にしている 基本的な生活習慣の年齢別確立に向けては、年間、月間、個別など各指導計画に立案している。特に生活習慣で配慮している点は、手洗い指導であり、手洗いの歌をうたいながら楽しく洗う事を習慣づけている。歯磨き指導も家庭と一緒に連携しながら歯を磨く習慣づけをする意図の基、1歳児クラスの1月ごろより個別に子どもの人数を決め、徐々に行っている。2歳児クラスでは、職員が側に着き、歯磨きをしている。トイレトレーニングは個々の子どもの排尿感覚に合わせて、無理強いをしないでタイミングよく声かけをしながらパンツへの移行を進めている。</p> <p>昼寝時へのきめ細やかな取り組みを行い、保護者にも安心感を与えている 昼寝とは次の活動への鋭気を養うためとし、個々の子どもの個人差や寝ることは気持ちがいいと感じるような配慮をしたうえで、一定時間眠りにつかせている。寝ぐずりする子は、おぶって寝かせつけることをするなど細やかな対応をしている。昼寝の雰囲気づくりは明るさをキープして子どもの顔が見えるようにしている。0歳児～2歳児クラスまで、5分毎の呼吸チェックをタイマーを使って行い、睡眠チェック表に記入している。保護者には昼寝時の様子がわかるよう専用アプリから見られるようになっており、保護者の安心材料の一助としている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが自ら遊びこめる環境の工夫として、どの場所でも遊べるようにしている</p> <p>子どもが自主的、自発的に遊びこめる環境づくりとして、ワンフロアの仕切りを外し、ままごとコーナー、乗り物コーナー、机上遊びコーナーと分けているが、子どもは好きな場所で、好きな玩具を持ち歩いて遊べる環境設定に配慮している。子どもは乗り物コーナーの電車を持ってままごとコーナーで遊んだり、机上遊びの玩具を持って違うコーナーで遊んだり、自由に室内での活動をしている。職員はそれぞれのコーナーで子どもたちの遊びを見守っている。</p> <p>子どもの意欲や自主性を尊重しながらリズム体操や制作等の表現活動に取り組んでいる</p> <p>午睡後の時間等にピアノや歌に合わせてリズム体操をおこなっている。職員が楽しそうに踊っている姿を見て、子どもたちがそれに倣って体を動かしている。また、その成果を運動会で披露している。職員による和太鼓演奏を聴く機会もあり、音や振動を楽しむ体験をしている。自由遊びの時に子どもたちが小さな太鼓をたたいて遊ぶ姿も見られる。制作は季節行事に合わせた作品を中心に興味を持った子どもも取り組んでいる。それぞれの作品を室内に飾るとともに、個々に綴じて年度末に保護者に渡している。</p> <p>特色ある保育として、ねらいを定めた戸外活動を計画的に取り入れている</p> <p>戸外活動を園の特色ある保育の取り組みとして、天気の良い日は毎日2回の散歩や、遠距離まで歩くことを目標の一つとしている。散歩先は固定遊具で遊ぶ公園や電車が見える公園、広場と活動のねらいに沿って行き先を決めている。また、月1回、遠足を実施し、時には法人のバスに乗って大型公園に出かけ、自然に触れ四季の変化を感じ取ったり、動物園では動物に興味を持ったりしている。遠足の際は園で弁当を用意している。年度末には親子遠足を行い、親子一緒に遠距離を歩くことで、子どもに脚力が付いたことを確かめる機会となっている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの成長や日頃の活動成果を披露する機会として運動会や季節行事に取り組んでいる</p> <p>行事には子どもの成長した姿を知らせる意味合いがあるとして、運動会や季節の行事に取り組んでいる。運動会は近隣の中学校の体育館を借り、0歳児クラスは親子競技やハイハイレースを、1歳児クラスはかけっこやリズム体操を、2歳児クラスは日頃園でおこなっている雑巾がけの競争やリズム体操などを披露している。七夕祭りは職員のペープサートや輪投げ、魚釣り、自由遊びのコーナーを設け、好きなコーナーでの遊びを楽しんでいる。ハロウィンでは仮装をして普段から散歩で通っている商店街等を歩き、店の人などと触れ合う機会としている。</p> <p>年間行事予定表の配布など、保護者が行事に参加しやすくする配慮をおこなっている</p> <p>年度初めに保護者に年間行事予定表を配布し、予定を調整しやすくするための配慮をおこなっている。また、毎月発行の園の通信に月の行事日程や内容を記載している他、玄関にも案内を掲示し、保護者の参加を促している。今回実施した利用者調査の結果では、行事日程の配慮について、保護者より高い満足度が示されている。運動会や親子遠足など保護者参加の行事の際は案内状やしおりを配布し、プログラムや持ち物、注意事項などを記載して、保護者が不安なく参加できるように配慮している。運動会は一時的保育利用の保護者にも案内を送っている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
<p>長時間保育の子どもが落ち着いて過ごせるよう、環境上の配慮をおこなっている</p> <p>8時～18時を基本の保育時間とし、その前後の朝7時～8時及び18時～20時を延長保育の時間としている。18時以降の利用人数は日によって増減があり、平均して6人程度となっている。迎えが19時を過ぎる場合は夕食を提供しており、保護者の状況に応じて柔軟に対応している。夜間の時間帯は子どもがゆったりとくつろげるよう、床にマットを敷いている。また、迎えの遅い子どもの気持ちに配慮して、玄関から離れた場所で延長保育を行っている。正規職員を含む2～3人の体制を組み、子どもが安心して過ごせるよう、個別の対応を心がけている。</p> <p>少人数での遊びや関わりの中で見せる子どもの姿を保護者に伝えるようにしている</p> <p>延長保育の時間は子どもにやりたい遊びを聞き、それぞれ玩具類で遊んだり絵本を見て過ごしている。延長保育用の玩具類は特に用意していないものの、子どもたちは互いに遊びを共有し、遊び込む姿も見られ、日中とは違った異年齢の交流ができています。楽しい会話が行きかうこともあり、職員がムービーに撮って保護者に観てもらおうこともある。また、職員とスキンシップが取れる運動遊びやふれあい遊びを多く取り入れ、遊びの充実を図っている。迎えに来た保護者には、連絡事項の他、延長保育の時間帯の子どもの姿をいねいに伝えるようにしている。</p>			
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>子どもが自分の意思で楽しく美味しく食べるための取り組みや生活環境の配慮がある</p> <p>子どもが自ら美味しく楽しく食事をとることを大切にしており、よく体を動かし、意欲的に食べることのできる生活環境に配慮している。また、誕生日メニューを工夫し、子どもが楽しめる工夫をおこなっている。食器は陶磁器製で、子どもが持ちやすく、食べやすい形状のものを選んでいる。法人の方針に則り、職員が見守りながら、子どもが自分の食べるごはんやおかずを自分で取り分ける取り組みに着手している。配膳台から自分の席まで運ぶ間にこぼす子どもも見受けられたが、自分が食べられる量の判断や食べる意欲の向上を意図している。</p> <p>米の自給自足や子どもが野菜などをかじり取って食べる調理等に取り組んでいる</p> <p>旬の食材や給食米の自給自足、和食中心のメニュー、素材の味を生かす、五分局玄米食の提供など、こだわりのある食材を用意している。調理方法にも工夫し、かじり取って食べられるよう野菜は大き目に切ることや自分で握って食べられるようスティック状にした野菜も出している。子どもは咀嚼力や嚥下力が身についている。調理職員は子どもの食べ具合を日々確認し、献立や調理方法に活かしている。法人全体の共通献立であり、調理手順が細かに記載してある。食物アレルギーを持つ子の食事では、保護者と密なやり取りをしながら安全を保つようにしている。</p> <p>子どもに食に対する関心を持たせるため、調理保育に取り組んでいる</p> <p>食について関心を持たせる取り組みでは、調理保育を実施している。旬の野菜を知ることや自分でつくる楽しさを知ることや、ソマイモクッキングや夏野菜スナゲティづくり等を通して、野菜を洗うこと、梅ジュースづくり、ホウレンソウクッキングなど、野菜を中心に乳児クラスができる調理保育を頻繁におこなっている。食事マナーは「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつを個々に行うようにしているが、食卓に着くときも個別で、食べ終わりも個別であり、あいさつが習慣化するようにしたいと考えている。</p>			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している		○非該当
評価項目7の講評			
<p>子どもの年齢や発達を踏まえた日常的な健康指導や危険回避の取り組みをおこなっている</p> <p>日常的な健康指導として、手洗いと鼻水を拭くことを重点的に指導している。手洗い用の歌を活用し、散歩から帰った時や食事前、排せつ後などに手洗いの習慣づけをしている他、鼻水が出たときは自分でティッシュペーパーでふき取り、鼻をかんだ後はゴミ箱に捨てるように教えている。また、清潔面では清潔な状態を気持ちいいと感じられる環境づくりに、安全面では子どもが身の回りの危険に気づけるよう、年齢や発達を踏まえた対応に努めている。日々の戸外活動では、意識的に傾斜のある公園で遊び、バランス感覚を養う体験をさせている。</p> <p>医療的なケアが必要な子どもへの対応や急変時の対応等に関する手順を整備している</p> <p>医療的なケアが必要な子どもへの対応に関するフローチャートやマニュアルを整備している他、AED設置に関しては現在、法人本部に要請中である。また、外部の救急救命講習の計画的な受講や、嘔吐処理用の衛生用品一式をセットし、それらを実際に使用した模擬訓練の実施など、急変時に備えた取り組みを進めている。薬の預かりの際は、医師の処方原則とし、与薬依頼票とともに薬剤情報提供書の提出を求めている。保護者が記名した薬包等を事務スペース内の隠れた場所にあるウォールポケットに保管し、誤薬や服薬漏れのないように努めている。</p> <p>保健衛生に関する毎月の通信や午睡時の呼吸チェックの結果を保護者に届けている</p> <p>毎月、保健衛生に関する情報をタイムリーに届けるための法人グループ共通の通信を発行し、全保護者に配布している。全園で取り組んでいる裸足保育や薄着についても、その効果や目的を理論的に紹介している。また、乳幼児突然死症候群を予防するための午睡中の呼吸チェックの結果を専用アプリで保護者に配信するなど、保護者と連携しながら子どもの健康管理に取り組んでいる。保育中のケガ等で職員が子どもを医療機関に連れて行く場合は、緊急でない限り連絡を控えるなど、法人として保護者への負担に配慮している。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者同士の交流や、保育内容理解につながる保護者懇談会を設けている</p> <p>保護者懇談会を年2回実施している。平日の夕方(17~18時)、クラスごとに開かれており、毎回8割から9割の参加がある。内容については、説明資料に基づく月の指導計画の内容や成果の紹介、指導目標の提示の他、クラスごとの懇談やスライドショーを観ながら給食の試食などをおこなっている。保護者同士の親睦を深める、園の保育のねらいを理解してもらうという目的に沿った保護者懇談会となっている。また、親子遠足など保護者参加の行事も保護者間の交流を深める機会となっている。</p> <p>毎日の迎えの際のていねいな保護者対応等を通じて信頼関係の構築に努めている</p> <p>毎日の子どもの迎えの際に、保護者に対し、個別に時間を取って、その日の子どもの様子や園でのエピソード等を伝えることで信頼関係の構築に努めている。また、個人面談や保育参加を保護者からの要望に応じて受け入れている。保育参加では、保護者が職員と一緒に保育を体験し、最後にアンケートをとっているが、参加は数名にとどまり、個人面談も1ケースのみとなっている。職員による日常的な相談体制が整っていることも背景にあると思われるが、原因の分析と改善に向けた検討が望まれる。</p> <p>法人が開催する育児のスキルアップ講座を保護者にも案内し、参加を呼び掛けている</p> <p>毎日の迎えの際の対応や連絡帳への返信によって保護者の子育ての悩みや相談に応じており、保護者の養育力向上に資する取り組みとなっている。法人内でわらべうたや玩具での遊びなど育児のスキルをあげる講座を開いており、保護者にも参加を呼び掛けている。系列園で開催される行事にも誘い、法人グループが目指す保育を知ってもらう機会としている。その他、法人が発行した食の取り組みに関する書籍を活用した情報提供など、多面的に保護者の育児支援をおこなっている。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の中で子どもたちが様々な大人に見守られる存在となるよう働きかけている</p> <p>子どもたちが地元の商店街にあるパン屋を職員とともに訪れ、食パンを購入して、サンドイッチの調理保育につなげている。子どもたちが買い物の体験を通じて職員以外の大人と交流するとともに、買ったものでおやつを作り食べる楽しさを味わっている。店舗を訪れた時、子どもたちは職員とともに積極的に挨拶を行い、店の人からやさしい言葉を掛けてもらっている。地域の中で子どもたちが様々な大人から愛され、見守られる存在となるよう、働きかけている。園では今後さらに他の保育園との交流を通じて、年中・年長の子どもと触れ合う機会を模索している。</p> <p>地域の子育て家庭を支援する事業の活性化に向けて取り組みを進めている</p> <p>地域の子育て家庭を支援する事業に積極的に取り組む法人の方針のもとで、各園における活動の様子や予定を関係者に案内する通信を毎月発行している。当園では、近隣の公園での青空保育として、歌遊びや自然物探し、運動遊び、紙人形劇、絵本の読み聞かせなど毎月企画し、公園で遊ぶ親子に参加を呼び掛けている。また、子育てサロンとして、園内でのわらべうた遊び等の他、運動会への参加も呼び掛けているものの、参加者が少なく、活性化に向けて通信の配布先の拡大等に取り組んでいる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	畑での野菜作り体験を通じて、土いじりや作物の収穫の喜びを味わっている	
内容①	戸外活動の一環としてや食育活動の視点から、乳児園においても農業計画の基、畑の活動を行っている。園以外の箇所に畑があり、子どもは土いじり体験のほか、野菜の栽培をしている。苗植えから水やり、間引き、収穫と一連の流れに沿って野菜の収穫をしている。子どもは定期的に畑に出かけ、野菜の生育を楽しみにしている。とれた野菜は園に持ち帰り、調理保育の材料にしたり、豊作だったナスの調理過程をみながら美味しく食べる体験をしている。野菜嫌いの子どもも自分たちで栽培した野菜は好んで食べるなど、意欲的に食べるねらいにもつながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	祖父母の招待行事や和太鼓体験をし、非日常の新鮮な刺激を受けている	
内容②	登園時は子どもの体に特に変わった様子がないかを保護者とともに確認しながら、その日の園での生活において制約や留意すべき事項等を聞き取り、申し送りのための所定の様式に記録して職員間で共有している。保護者とは専用のアプリを介して子どもの様子等に関して情報をやり取りしている。午前中の園での活動の様子が子どもの午睡時には写真画像つきで毎日アプリで配信されている。迎えの際は、子どもの一日の様子を一言で終わらせず、具体的なエピソードを交えて保護者に伝えることを法人として重視しており、ていねいな対応を心掛けている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	近隣の店舗等を訪問して、そこで働く大人と交流を図る取り組みをおこなっている	
内容③	「地域交流・様々な仕事を目にする・地域の大人と目を見て話す」ことを目的として、自分たちが暮らす街にあるいろいろな店舗や施設等を訪れ、そこで働く大人に仕事について質問し、交流を図っている。パン屋や大型スーパーマーケット、駅、交番、消防署、家具屋、薬局などに週1回出かけており、中には子どもたちが来るのを待っている商店主もいて、温かい触れ合いが生まれている。地域の中に顔見知りの関係が着実に広がっており、子どもの社会性の育ちに繋がるとともに、子どもたちの成長を地域社会が支える土壌の形成に資する活動となっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの意欲と自主性に基づく実際の体験を後押しする中で、職員は子どもの姿を見守り、見届ける姿勢を基本に保育を展開している
	内容	子どもの「やってみたい」という意欲や「できた」ことの喜びを大切に、子どもの自主性に基づく実際の体験を後押しする保育の展開を目指している。室内では、子どもが自分の好きな場所で、自分の好きな玩具や絵本を手にとって遊べる環境を整える一方、戸外活動ではたっぷり時間を取った毎日の散歩や、農園での本格的な野菜作りに取り組んでいる。畑で採れた野菜を調理して皆で味わうとともに、給食では子どもが自分で食べられる量を自分で取り分ける方式を試行している。職員は子どもたちの姿を見守り、見届ける姿勢を基本に保育に携わっている。
2	タイトル	子どもの一日の様子をエピソードを交えて保護者に伝えることを重視し、職員間で情報を共有するとともに、全員で観察眼を養っている
	内容	専用のアプリを介して保護者と子どもに関する情報をやり取りしている。午前中の園での活動の様子が子どもの午睡時間中に写真画像つきで毎日アプリで配信されている。また、迎えの際は、子どもの一日の様子を具体的なエピソードを交えて保護者に伝えることを法人として重視している。勤務時間の異なる職員間で共有するための連絡ノートには、保育の場面で感動したことなど、子どもたちの姿が生き生きと綴られている。順番担当の職員は夕方以降の時間帯を中心に自分の言葉で保護者に子どもの姿を伝えるようにしており、全員で観察眼を養っている。
3	タイトル	職員間の連携を深めるとともに、職員が相互に気づきを伝え合い、指摘し合える関係性を高めることで組織力の強化に取り組んでいる
	内容	当事業所では、昨年度まで当園のリーダー保育士だった施設長を中心として、職員個々のスキルアップに加え、職員同士が相互に気づきを伝え合い、指摘し合える関係性を高めることで組織力の向上に取り組んでいる。職員間の情報共有には特に力を入れ、毎日のミーティングや職員間の連絡ノートで、その日の子どもの様子や保護者との伝達事項を共有している。また、保育士と調理スタッフの連携による食育活動の充実に取り組み、食に対する子どもの意欲と興味を高めながら給食の喫食状況の向上につなげるなど具体的な成果を生み出している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	法人の方針を踏まえ、異年齢の子どもの育ち合いを引き出す指導計画の構成と個別の保育のねらいの保護者との共有に向けた検討が期待される
	内容	当園は異年齢保育を基本としているものの、保育の計画は年齢別の年間及び月間指導計画を基本とし、保護者懇談会で説明している。本来的には、保育を通じて子どもたちの育ち合いをどのように引き出していくかという視点に立った指導計画の構成と、それに基づく計画的な保育の展開が望まれる。また、家庭と連携しながら子どもの生きる力の基盤形成を支えるうえで、個別の保育計画における月ごとの保育のねらいを保護者と共有することが重要と考えられる。法人独自の連絡帳アプリを活用して保護者に発信するなどの方法を含め、今後の検討が期待される。
2	タイトル	職員の意向や状況を踏まえた園内研修等の機会を工夫する中で、職員の成長と定着をさらに推進することが期待される
	内容	法人として職員の確保と離職防止を重要課題に据え、対策を講じている。そうした中、独自の連絡帳アプリの開発と活用は、業務効率化と職員の負担軽減を目的の一つとしたものと思われる。また、階層別の研修制度を整備し、職員一人ひとりの学習ニーズに基づく外部研修を案内している。実際には現場の人員体制や各人の事情等によって受講状況に差が生じており、施設長が日々の保育を通じて個別の育成に努めている。今後は職員同士が専門職として相互に高め合うための園内研修等の機会を工夫する中で、職員の成長と定着をさらに推進することが期待される。
3	タイトル	近隣の保育所等との交流を通じて園児が年中・年長の子どものと一緒に遊ぶ機会を増やし、転園後の不安の解消につなげていくことが期待される
	内容	地域の子育て家庭を支援するための催しとして、園内での歌遊びや公園での集団遊び等を計画し、案内しているものの、参加の親子が少なく、園ではさらなる周知活動を課題にあげている。当園の定員は2歳児クラスまでで、地域の年中・年長の子どものと一緒に遊ぶ機会は子どもたちにとっても貴重と言える。実際に多くの園児が3歳児クラスに上がるタイミングで周辺の認可保育所等に転園していく中で、今後は近隣の保育所等との定期的な交流を通じて園児が年中・年長の子どものと一緒に遊ぶ機会を増やし、転園後の不安の解消につなげていくことが期待される。